



ポラリス(北極星)を目指すには
北極星を見分けること。
目指すところ(方向)は一緒でも
やり方はそれぞれ多種多様。
一人一人の思いをエッセイの形で
伝えたい。

ときめき Beating Kashima 鹿島



院長 坂之上 一史

新年あけましておめでとうございます。皆様は恙無く新しい年を迎えられたことと思います。昨年初めからの新型コロナウイルスの流行はいまだに衰える気配を見せず全世界を席卷しています。私たちはこの感染症によりこれまでと違う過ごし方を、更に1年求められようとしています。密を避けるという言葉が金科玉条のこととなり、講演会、会議、学会はパソコンでのウェブ開催と変わりました。地域医療を円滑に進めるため、私たちが過去10年にわたり育ててきた地域での顔の見える関係づくりに竿をさされているように感じています。

鹿島病院が回復期リハビリ病棟、地域包括ケア病床をつくり慢性期病院としての機能を追求していく中で、近年鹿島病院が老成化したように感じられていました。そんな中新型コロナによって院内での会議の縮小、自粛により院内の閉じこもりに拍車がかかったようで残念に感じていたのです。

ところが昨年夏から鹿島病院の在宅部門である居宅ケアマネジャーと通所リハビリの職員の皆さんが、病院との連携や魅力ある通所リハビリ活動について毎週のように意見交換を行う活動を始めました。

その活動が鹿島病院の院内連携についても目に見える形でよい成果をもたらしてくれています。

地域包括ケアシステムをより充実したものにするためには各施設、職種間での連携をより深めることが求められています。新型コロナの時代にあっては連携の取り方、方法にさらなる工夫を必要とするようです。新型コロナのせいにして閉じこもり、逃げるだけでなく、皆さまの柔軟い発想で、職域を超えた新たな連帯が生まれることを期待して新年の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



丑年職員

今年の抱負

* 看護部 小豆澤 未歩

あけましておめでとうございます。無事社会人3年目を迎える事ができました。今年は仕事もプライベートもチャレンジ精神を持って取り組みたいと考えています。昨年はコロナウイルスの関係で家にこもることが多かったのでインドアな趣味も一つ見つけていきたいです。今年もよろしくお願いします。

* 事務部 奥板 亜希

あけましておめでとうございます。昨年は1月から鹿島病院で働かせて頂き、コロナで今までと違う生活の毎日で大変でしたが、変化の多い1年でもありました。今年は仕事ではスムーズに業務をこなせるようになりたいのと、プライベートでは昨年はコロナの影響もあり、趣味のウォーキングにあまり行けていなかったため今年はいくつかの場所にウォーキングに行きたいです。今年もよろしくお願いします。

* 看護部 片倉 栄治

あけましておめでとうございます。今年で早くも社会人生活4年目を無事迎える事になりました。毎日、お仕事やプライベートが充実しているため、1日が早く終わってしまいます。去年は、体重増量！と目標を立てたものの、久々に会う友人には、「また痩せた？」と言われるばかり…今年こそは、体重増量に向けてドカ食いしていこうと思います。今年もよろしくお願いします。

* 看護部 金山 利恵

新年あけましておめでとうございます。2021年今年新しいスタートを切ったような気持ちがあります。干支も一周し、個人的には年女なので一層身が引き締まっています。昨年は新型コロナや自然災害が多く、普通の生活がどれだけ幸せな事かを考えさせられる1年になりました。私の今年の抱負は「健康管理」です。風邪やコロナや病気にならないように手洗、うがい、睡眠をしっかりとして体調を崩さない1年にしたいです。今年もよろしくお願いします。

* リハ部 川島 淳

年男と言われて思ったことは、もうそこそこの歳になってきたのだと感じます。一昨年から、自身の環境が変わり、考え方など色々変わりました。楽しい事が増えた一方、より責任もあります。これからも、やりたいことに変わらずチャレンジしつつ、関わる全ての人への感謝を忘れず、時間をより大切に、毎日を丁寧に過ごしていく事を心掛けたいと思っています。また、やることはしっかりとやり、年間100本の映画鑑賞は続けていければと思っています(笑)

* 診療部 北野 さおり

あけましておめでとうございます。今年の四月で入職して三年目を迎えます。昨年、コロナウイルスの影響で色々な活動が制限されたりと、不自由な事もありますが、風邪をひく事もなく一年を過ごす事が出来ました。今年も、自分自身はもちろんだが、家族や職場の皆さんが健康に一年を過ごす事が出来れば幸いです。

* 看護部 木村 夏希

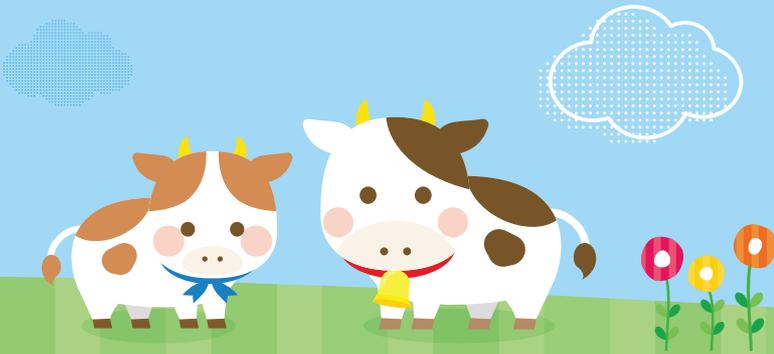
今年で入職して3年目になりました。リーダー業務や夜勤業務も始まり、少しずつ出来る事が増えてきていると実感する一方で、まだまだ努力が必要だなと感じます。昨年は、コロナの関係で外出することも少なく、家で過ごすことが多い年となりました。2021年はコロナも落ち着き明るい年になればいいと思います。また、仕事面では患者さんにとって安全・安楽な看護が行えるように頑張りたいです。今年もよろしくお願いします。

* 看護部 曾我 伸也

早いもので入職してから10年が経とうとしています。沢山の経験をさせて頂き、少しは成長できたかなと感じる一方で、気づけば体重も10キロ増えて牛のように体も大きくなりましたので、今年の抱負としては、コツコツと運動してダイエットに励みたいと思います。コロナ渦の中で窮屈な世の中になっていますが、楽しい事や嬉しい事がギュウッと詰まった1年になりますように。今年も宜しくお願いします。

* 医療相談部 土肥 かなえ

新年あけましておめでとうございます。昨年はコロナウイルスの影響で生活様式も一変し、想像もしていなかった1年となりました。楽しみであった旅行にも気軽にいけなくなり、自宅でガラガラと過ごすことが多くなりました。今年は生活にメリハリをつけ、規則正しい生活を送りたいと思います。今年もよろしくお願いたします。



看護部 那須 紅音

あけましておめでとうございます。今年で無事看護師3年目を迎えることができました。病棟業務にも慣れ、任される仕事も増えてきましたが、日々忙しい中で、丁寧に確実な仕事ができるよう精進していきたいです。また、個人的には韓国語の勉強を始めたので少しずつ頑張りたいと思います。今年もよろしくお祈りします。



事務部 永島 陽子

あけましておめでとうございます。去年はコロナの流行で、仕事もプライベートもいつもと違う様式になり、大変な世の中になってしまったなあと思う日々でした。今年はコロナに負けないように気を引き締めて、健康第一で仕事頑張ります。プライベートではランカーを釣れるように足腰を鍛えたいです。今年もよろしくお祈りします。



リハ部 福田 容子

急がず、焦らず、他人の評価に振り回されず、余分な物は整理整頓、大切な者にもっと興味関心を。「子曰く…四十にして惑わず、五十にして天命を知る」五十路を前にまだまだ日々迷走中の私ですが、本年もどうぞよろしくお祈り致します。



看護部 槇野 香奈子

早いもので、入社して10年以上が経ちました。子供達も成長し、長女は、就活と国家試験に向け、励んでいます。今年は私も、何か目標を立て、達成できるよう、努力して行きたいと思っています。そして、家族の健康と公私とも充実した1年になるようにしていきたいと思っています。今年もよろしくお祈りします。



看護部 三島 梨湖

明けましておめでとうございます。今年も年女で看護師3年目になります。病棟での仕事も慣れてきましたが、初心を忘れずに働きたいです。プライベートでは、昨年コロナの影響で好きな旅行やLIVEに行くことが出来なかったため、今年も早くコロナが収束してほしいなと思っています。今年も風邪をひかないように頑張ります。今年もよろしくお祈りします。



リハ部 森山 恵介

あけましておめでとうございます。趣味でランニングをしていますが、去年はマラソン大会が全て中止になりました。目標を定める事が出来ず、日々のランもなくなり、メンタルの弱さを痛感した一年でした。今年箱根駅伝での駒澤大学の激走に刺激を受けて、「自分に克つ」ために、ランを再開しようと決意しています。目標を持つ事の大切さを改めて感じ、患者様の目標がどこにあるか、患者様と共有しながらリハビリを展開出来ればと思っています。



看護部 森脇 望

早いもので今年で36才になります。中身は中学生の頃から大して進歩していないように思われますが、天ぷらで胸焼けするようになったり膝が痛かったり肉体的方は確実に衰えてきていることを実感しています。さて、そんな今年の抱負ですが「ダイエットをする」にしたいと思っています。若いころは「いくら食べても太らない」などと宣っていましたが、加齢とともに食べた分だけ肉が付くようになってきました。昔は履けていたズボンが履けず、新しい物を買わないといけなような状態です。お財布の為に頑張りたいと思います。



在宅サービス部 森脇 由貴

訪問看護に入りちょうど一年が経ちました。2020年は公私とも落ち着かず、日々緊張感の中でバタバタと過ぎたように思います。2021年もしばらくはピリピリとした雰囲気が続きそうですが、慌ただしく過ぎる毎日のなかで、自分や大切な人達の健康を守りながら、1日1日を大事に過ごしたいと思っています。



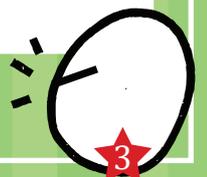
在宅サービス部 山田 麻美

明けましておめでとうございます。今年も子供たちがしっかりと「寝る・食べる・動く」の3点が出来るように、お母さんをしてほしいなと思います。そしてお腹抱えていっぱい笑えるウツリッシーな1年になれば良いな。年女楽しみます。



看護部 吉岡 由佳里

あけましておめでとうございます。皆さまはどんな年越しになりましたか？昨年はコロナ禍もあり、生活様式がガラッと変わった年になりました。私自身、昨年9月から入職し、皆さまに支えられて過しています。生活様式の変化やまた自分自身の転職したことも重なり、色々変化がある年越でした。やはり、家族の絆や家族の健康が一番に考える昨年でしたので、今年はさらに家族の力や皆さまの力を貸していただき、チャレンジできる年・明るい年になればと思っています。どうぞ本年もよろしくお祈りいたします。



今回の地域連携室便りは、今年第18回院内研究発表大会で第1位に選ばれた、やまゆり居宅介護支援事業所の演題を紹介します。

利用者の想いを 家族や支援者へつなぐ為に —鹿島病院のケアマネジャーとして考える—

原 真理

近年、医療現場においては、ACPを用いた話し合いを行うプロセスが定着しつつある。「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」によると在宅において、利用者の心身の状態や社会背景に応じて、ケアに関わるケアマネジャー等の介護従事者も加わることも想定されているとある。松江市も、一昨年度より、利用者の想いを伝え身近な人と話し合う、終活支援ノート（図1）を作成している。



図 1

当居宅のケアマネジャーから、利用者が「自分が亡くなった後は、他界した夫のお墓に入りたい」という想いを事前に確認しながら、実際は実現できなかったというケースが今でも心残りであるとの声があった。あの頃に終活支援ノートがあり、利用者に活用してもらってれば、もっと利用者の想いを家族に伝えることができた

鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所



のではないだろうか？と感じている。

自宅で暮らしていく上で、利用者の力とそれに伴う家族の力は当然必要である。その為、利用者の病状が変化する時には、家族の想いが大いに影響を受け、利用者の想いを伝える手段もないまま、家族の選択で決まることが多々あると感じている。

そこで、私達は、利用者の想いをつなぐ手段の一つとして、終活支援ノートを活用した支援について研究したいと考え、以下の3つの方法から考察した。

①当居宅のケアマネジャーに、日頃の利用者の想いを確認する際の意識調査を実施。

【結果】病状が悪化してきている時に今後の治療や生活の意向をどのようなタイミングで聞き取りをしたらいいのかが分からないということを感じていることが分かった。そこで、実際、終末期にどう過ごしたいか利用者の想いを家族や支援者に伝えるツールとして、終活支援ノートが活用できるのかどうか、ケアマネジャーがそれぞれ自分自身に終活支援ノートを記入してその感想を話し合った。

②当居宅のケアマネジャーが自分自身に「終活支援ノート」を使用してみた感想と実際活用することについて話し合いを実施。

【結果】自分が亡くなった後、残された家族に迷惑をかけない為のノートで、そのノートがある



と家族も安心だという意見が一番多かった。

③終活支援ノートを作成した
松江市在宅医療・介護連携
支援センターに出向き、実
際使用してみた方の感想を
聞き取り。

【結果】担当者より、終活支援ノートそのものの目的は、利用者にとって大切な人に本人の想いをつなげるものであること、またそれは、“「健康な全ての成人」が「高齢者」となり、「人生の最終段階」に至るまでの3つの段階の過程を通して、利用者自身が死ぬ時のことだけでなく、「これから先をどう生きたいか」を話し合えるツールとして必要なものであることを一番に伝えていきたい”という思いが伺えた。

ケアマネジャーが、終活支援ノートを活用していくということについて、利用者一人一人の状況と照らし合わせながら、ツールの一つとして用いていくことで、一歩踏み込んだマネジメントができる点で有効と考える。しかし、現実的に終活支援ノートを実用化して取り扱うことには、いくつかの課題があると感じている。それは、終活という言葉は、死というマイナスなイメージと直結する印象があり、「終活」という文化自体が現代に十分根づいていないことで、受け手側の心情を十分考慮する必要があるということである。

アセスメント実施日：令和 年 月 日

【もしも病気になったら】

- ・ 病名・余命を告知して欲しい
- ・ 病名のみ告知して欲しい
- ・ 家族にまかせる
- ・ その他（ ）

【病気になった時の治療について】

- ・ 可能な限り受けたい
- ・ 回復の見込みがなければ希望しない
- ・ 苦痛を少なくすることを重視したい
- ・ その他（ ）

【最期をどこで迎えたいかについて】

- ・ 自宅で過ごしたい
- ・ 病院で受けたい
- ・ ホスピスや緩和ケア病棟で過ごしたい

【介護が必要になったら】

- ・ 介護をお願いしたい人（ ）
- ・ 介護してほしい場所（自宅・病院又は施設・わからない）
- ・ 介護の費用
（預貯金や年金の範囲が良い・用意してある・わからない）

【判断能力が低下したら財産管理をお願いしたい人】

- ・ 配偶者
- ・ 子ども
- ・ その他（ ）

【その他】

図 2

そこで、ケアマネジャーが、終活支援ノートを使用する際には、使用する時期とその対象者を見極め、終活支援ノートの項目を盛り込んだ新たなシート（図2）を作成し、それをアセスメント場面で利用者と一緒に話し合う材料として活用していくと良いのではないかと考えている。

利用者それぞれの生活歴や様々な家族背景の中で、それぞれの考え方や想いがある。だからこそ、心身ともに健康な時から、家族を含め、利用者の想いを伝える選択肢の一つとして、取り扱っていく必要があると考える。利用者にとって解決すべき課題がみえてきた時、利用者や家族との意見が分かれてしまうことや利用者と支援者との意見が分かれることもある。解決すべき課題に対し、ケアマネジャーは、利用者と家族で向き合ってもらうきっかけをつくり、ともに悩み抜いた過程、そこで導き出された答えが改めて大切だと考えている。

ケアマネジャーとして、今後も、利用者から発する言葉の真意を丁寧に探っていき、利用者自身が生き方を自由に選択できるように利用者の想いをつないでいける存在となれるよう日々努力を積み重ねていきたい。



鹿島病院通所リハビリやまゆり

通所リハビリでは、毎月、感染予防に気をつけながら、お楽しみ会を企画しています。普段はリハビリに特化したサービスを目指して、運動、体操、脳トレーニング、日常生活動作訓練に力を入れています。このような大掛かりなレクリエーションもいつもと違った楽しみのひとつとして感じていただければと思っております。

通所リハビリテーション 所長 板垣 陽介

黄門さま
助けてください！

9月 演劇
「水戸黄門」



この紋所が
目に入らぬか！



聖火



大玉転がし



10月
大運動会

洗濯ばさみリレー



玉入れ



毎月恒例 お楽しみ会



うんこしょ!
どっこいしょ!

収穫準備
OK



11月
大収穫祭



なにが獲れたかな?



豊作!
豊作!

気合を込めて!



よいしょー!
よいしょー!



12月
餅つき大会
鏡餅作り



こねて まるめて



鏡餅
完成!



- ①部署・職種 ②趣味・特技は何ですか？
- ③好きなもの・好きなことを教えてください。
- ④一言ご挨拶をお願いします。

入職 50音順

酒井 里緒菜



- ①看護部 4階病棟・看護師
- ②グルメ探索・食歩き
- ③ラーメン
- ④まだ経験が浅いため不安もありますが、少しでも早く業務に慣れるよう精一杯頑張りたいと思います。ご指導よろしくお願いします。

佐藤 可奈



- ①看護部 4階病棟・看護師
- ②温泉めぐり、旅行好きです。今はなかなかできません。
- ③蕎麦、鰻、えんがわ、牛タン、湯葉、もつ鍋、水炊き、わらびもち。など
- ④久しぶりの病棟での仕事なので、新人同様にご迷惑もかけるとは思いますが、早く慣れて、皆さんと楽しくお仕事させてもらいたいです。何卒宜しくお願い致します。

曾田 歩



- ①診療部栄養課・調理員
- ②体を動かすこと
- ③カフェ巡り・音楽鑑賞
- ④病院での調理は初めてなので、分からない事だらけですが、先輩方に指導していただきながら一生懸命頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

西尾 真一



- ①診療部・医師 ②木工
- ④令和3年1月～勤務させていただきます。院内の敷地のそこかしこに残る歴史的遺産には、長い療養の中に運動や作業を負荷することで、病気の治療や社会復帰を指向してゆくリハビリテーションの精神が既に息づいているように思います。改めて諸先輩方の見識、実践に感謝を深くし、その流れのなかに我々も存在できたことに感謝したいと思います。宜しくお願い致します。

平井 克彦



- ①看護部・介護福祉士
- ②トレーニング・スポーツ
- ③カラオケ・運動
- ④職員の方達の足を引っ張らないように、すぐに仕事を覚えて「力」になりたいと思います。よろしくお願いします。

松本 朱未



- ①看護部 3階病棟・看護師
- ②散歩・ドライブ
- ③チョコレート
- ④昨年10月に松江市へ移住いたしました。すごしても早く病院、病棟の業務に慣れる事が出来るよう頑張りますのでご指導のほどよろしくお願い致します。

退職

- 堀 美幸 看護部
- 来海 香里 薬剤部
- 松尾 三美 看護部
- 永瀬 隆浩 リハビリテーション部リハビリテーション科
- 松本 美幸 看護部
- 藤井 誠 看護部
- 井上 倫実 看護部
- 杵築 薫 看護部
- 曾田 瑠衣 看護部
- 安食 昇 看護部
- 佐藤あや子 看護部
- 仁宮 笑菜 診療部栄養課

職員数

3.1.1現在

職 種	職員数(名)
医 師	7人
薬 劑 師	2人
P T	24人
O T	17人
S T	6人
看 護 師 (准看護師)	89人
臨 床 検 査 技 師	2人
診 療 放 射 線 技 師	1人
M S W	6人
介 護 支 援 専 門 員	6人
介 護 福 祉 士	53人
歯 科 衛 生 士	2人
管 理 栄 養 士 (栄 養 士)	5人
調 理 員	11人
事 務 職 員	21人
合 計	252人

令和3年 永年勤続表彰

- 勤続25年 野田以登子
- 戸田 美加
- 勤続20年 江角 敦子
- 高井 美佳
- 勤続15年 小川 徹子
- 糸川 佳子
- 勤続10年 前田 拓郎
- 森山 彩夏
- 曾田 良平
- 青山 善一
- 武藤 貴広
- 福田 容子
- 角田 幸美
- 安達亜希子
- 浦枋はるか
- 勤続5年 亀山 庸子

公人会事業報告 (R2年10月～R2年12月)

*退院日は除く

鹿島病院 ①外来

(診療日数65日)	1日平均患者数
延べ外来患者数	1,019人 15.6人/日

②病棟 2F特殊疾患病棟

(診療日数92日)	1日平均患者数
延べ入院患者数	5,217人 56.7人/日
レスピレーター装着延べ患者数	1,759人 19.1人/日
特殊疾患対象延べ患者数	
①脊髄損傷等の重症障害	552人 6.0人/日
②重度意識障害	2,213人 24.0人/日
③神経難病	1,807人 19.6人/日
④筋ジストロフィー	0人 0.0人/日

3か月間の特殊疾患対象患者割合	87.2%
-----------------	-------

3F回復期リハ病棟

(診療日数92日)	1日平均患者数
延べ入院患者数	4,040人 43.9人/日
回復期リハ病棟対象患者割合	98.9%
平均リハ提供単位数	5.6

患者重症度指数 強化項目 リハビリ数

直近6か月間の新規入院患者 重症者の割合	115人 49.5%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合	93.4%
直近6か月間の重症改善率	75.9%
直近6か月間の重症改善率	49.6点

4F療養病棟

(診療日数92日)	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,156人 23.4人/日
直近3か月間の医療区分2・3の患者割合	82.2%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合(4F全体)	82.0%

4F地域包括ケア病床

(診療日数92日)	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,299人 24.9人/日
A・C項目患者の割合	20.4%
平均リハ提供単位数	2.8
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合	84.7%
ショートステイ延利用者数	21人 0.2人/日

在宅サービス部

①通所リハビリ“やまゆり”

(稼働日数77日)	1日平均利用者数
通所リハビリ延利用者数	3,049人 39.6人/日
短期集中リハビリ実施数	284単位 3.7単位/日

②訪問リハビリ“つばさ”

(稼働日数62日)	1日平均利用者数
訪問リハビリ延べ利用者数	188人 3.0人/日
訪問リハビリ延べ単位数	421単位 6.8単位/日

③訪問看護“いつくしみ”

(稼働日数62日)	1日平均利用者数
訪問看護延利用者数(医療)	210人 3.4人/日
訪問看護延利用者数(介護・看護)	707人 11.4人/日
訪問看護延利用者数(医療・介護・リハビリ)	315人 5.1人/日

④鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

(稼働日数62日)	月平均策定数
延べケアプラン策定数	443人 148人/月
延べ介護予防ケアプラン数	183人 61人/月





医療法人財団公仁会中期ビジョン2019

医療・介護が一体となり、リハビリテーションを柱としたサービスを展開し、急性期病院をはじめとする医療機関・介護事業所・行政機関との連携を軸に、橋北地区の地域包括システムを支える。

<ビジョン策定の主旨>

高齢化に伴う疾病の多様化・重度化さらにリハビリテーションの要求に応え、橋北地域における地域包括ケアシステムの中核病院として入院医療と在宅医療を継続的に提供するため、中期ビジョン2019を策定する。

<本計画の期間>

この計画は2019年4月から2022年3月までの3年間を期間とする。

1. 良質な回復期・慢性期医療

(1)回復期医療

回復期リハ病床を中心としたリハビリテーションの更なる充実に加え、地域包括ケア病床での短期リハビリテーションを組み合わせることで地域の回復期医療を担う。

(2)慢性期医療

特殊疾患、医療療養病床で難病、医療依存度の高い患者への対応を行い、地域包括ケア病床で入院加療を必要とする高齢患者に準急性期医療を提供することにより地域の慢性期医療を担う。

(3)質の高いリハビリテーション

回復期リハ・地域包括ケア病床でのリハビリテーションを外来・通所・訪問のリハビリテーションに繋げていくことで、地域におけるリハビリテーションを総合的に行う。

(4)外来・訪問診療

入院診療を支えるため、外来のみならず訪問診療を訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、通所リハビリとの連携で充実させる。

2. 在宅生活を支える医療・介護

(1)良質な在宅医療

患者にとって「安心な支える在宅医療」を促進するため、外来・訪問診療と訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所との連携を一層進める。

(2)良質な在宅支援サービス

外来部門、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所ならびに通所リハ、外来リハ、訪問リハが質・量ともに向上し、リハビリテーションを柱とした質の高い医療・看護を提供する。

3. 地域連携 及び 地域貢献

(1)病病連携、病診連携、地域（行政（県・市・保健・福祉・介護）、地区）連携

急性期病院や地域の診療所と継続的・定期的な意見交換会を実施するなど顔の見える連携の更なる強化を行う。また、行政との連携を深め、周辺地区事業にも積極的に関わる。

(2)予防医療や介護技術を地域へ普及

地域住民への啓発活動や医療・介護関連職種に対する勉強会等を通じて、地域に積極的に知識を還元していく。

(3)地域への情報発信

病院の機能や在宅サービス機能、治療成績、行事等についてホームページや広報誌等を活用して、積極的に情報発信を行い公仁会のブランド力を高める。

4. 医療安全・院内感染対策

(1)医療安全

医療・介護サービスを提供する全ての方へ医療安全を担保することは前提条件であり、日常から緊張感をもって業務改善に努める。

(2)院内感染対策

院内感染が起こってからの対策のみならず「発生しないための対策」「予防策をいかに取るべきか」院内感染防止対策委員会の活動だけでなく日頃からの予防教育を継続する。

5. 医療サービスの質の改善

(1)機能評価の評価に基づく継続的改善活動

日本医療機能評価機構の実施する病院機能評価3rdGV2.0への参加が決定し2020年1月に更新受審する予定である。日頃の診療行為等の見直しを図り、医療サービスの質の向上に努める。

(2)臨床指標（Clinical Indicator）の活用

診療報酬体系がストラクチャー評価からアウトカム評価重視へ移行する過渡期の中で、当院のアウトカムである在宅患者受入れ率や在宅復帰率、リハ効率、医療区分割合、医療看護必要度、訪問診療回数などを院内外に積極的に発信していく。

(3)患者満足度向上の組織的取組み

継続的なアンケート調査を行い患者ニーズの把握に各部署務め、満足度向上のため継続的に努力する。

(4)施設・設備・環境の整備と充実

患者のQOLに資すること、並びに職員の働きやすい環境の整備を計画的に進める。

6. 人材の確保と育成

(1)人材の確保

良質な医療・介護をより向上させる為、必要人材を適時適切に確保する。

（特に医師は現在の構成を顧みれば確保は急務である。また、薬剤師、看護職員、介護職員においても各々の自己研鑽だけでなく新たな人材の受入が必要である。）

(2)人材の育成

研修会、研究会への参加は今後も計画的・継続性をもって行い、各人の一層のレベルアップを行う。

(3)働き方改革への対応

「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」に沿った労働環境を整備し、働きやすい環境作り、離職防止の取組、キャリアアップサポート、福利厚生事業の充実など、魅力ある職場づくりを行う。

(4)学生の受入れ

学生実習の積極的受入れを行い職員のレベルアップを促すとともに、採用機会を増やすような取組みを引き続き行う。

7. 新電子カルテシステムの検討

CIMA/LinkCare、医事システム Hope のハード更新を2022年に控え、今後の電子カルテシステムはどうあるべきか検討委員会を立ち上げて検討する。



第17回

院内研究発表大会



院内研究発表大会 会長 小林 亘

昨年度から院内研究発表大会の会長を務めさせて頂きました。現在このような社会情勢となり、予定していた2019年度の院内研究が中止となりました。その代わりとして、2020年度では秋頃より抄録集の作成に取り掛かりました。発表者の方には、集団で話し合いがしにくい状況で、抄録とパワーポイントを再作成して頂き大変だったと思います。そのおかげで無事に抄録集を完成させることが出来ました。

今回の大会のテーマが「ツナグ ～過去と未来、人と人、地域と鹿島病院～」でした。研究の中に、地域との繋がりや連携についての発表もあり、よりこの病院の役割である、地域医療の大切さを学ばせて頂きました。個人的には今までは院内研究に参加出来ない時には発表内容を把握していないこともあり、逆に今回は抄録集という誰もが見ることが出来る形となったことは良かった、と思う面もありました。この大会のテーマを考えて下さったリハ科の浦栃さんを始め、坂之上院長、院内研究委員の方、発表者の方々のおかげで、いつもとは違う形ではありましたが無事に終わることが出来ました。皆様ありがとうございました。お疲れ様でした。

審査結果



「通りハの入浴自立支援～入浴評価シートを導入して～」

チーム名 Young☆Powers II (通所リハビリ)



「利用者の想いを家族や支援者へつなぐ架け橋となるために」

チーム名 Golden Banded Lily～人生に楽しみを～(居宅介護支援)



「おか☆えり～地域包括病床再入院患者の原因と今後の課題～」

チーム名 リハ 療養チーム

編集後記

2021年となりました。早速、嵐口です。紅白で泣きました。大みそかの配信ライブで号泣しました。逃げ恥のスペシャルでも泣きました。年男ってこんなに泣くんですって？次号で映画部の特集が組まれるそうで、お勧め映画見て心の隙間を埋めようかと思います。

新たな年ですが、依然厳しい状況が続いています。まずは自身の予防から。そして毎日、健康と笑顔を手掛けて過ごしていきましょう。本年も変わらずよろしくお願ひ致します。

広報委員会

■編集・発行・責任者：広報委員会委員長

医療法人財団公仁会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1
e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/
鹿島病院 TEL(0852)82-2627(代) FAX(0852)82-9221
訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL・FAX(0852)82-2640
やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX(0852)82-2645
通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX(0852)82-2637
訪問リハビリテーション(つばさ) TEL・FAX(0852)82-2637

■印刷元 柏村印刷株式会社

